

経済学部として行った組織的活動

1. 紀伊半島価値共創基幹生涯学習・リカレント教育推進室

2020年度の機構改革で、岸和田サテライトは紀伊半島価値共創基幹に統合され、基幹の中核を構成する価値共創オフィスの組織となった。地域活性化総合センター下の生涯学習・リカレント教育推進室では、地域が求める地域課題解決に資する共同学習をプロデュースする組織として、生涯教育事業や人材育成、研究を進めている。2019-2020年度に実施された事業のうち、経済学部教員が関与しているものは、下記の通りである。

1.1 高大連携事業KOKO塾「まなびの郷」

高大連携事業KOKO塾「まなびの郷」

大学が設定した講義を聞くという形式ではなく、高校生から高齢者まで参加者が自らの関心や疑問・学びに関する希望を出し合い、参加者が<学びづくり>に主体的に参画する場を提供している。経済学部教員は、下記のテーマでワーキンググループの主査として関与している。

- ・「まちづくりWG」…足立基浩教授

2. 南紀熊野サテライト

南紀熊野サテライトは、地方の中小都市や農山村に大学の地域連携・社会貢献の拠点を求めようとする地方型サテライト(地域型サテライト)である。和歌山県では人口の多くが県北部に偏っているが、高等教育機関や研究機関も、その多くが和歌山市をはじめとする県北部に集中している。和歌山県南部の住民にとって大学は縁遠い存在であり、その解決策の一つが2005年4月の和歌山県田辺市における南紀熊野サテライトの開設であった。なお、開設当初より財政的裏付けと多数の教員の組織的協力が必要であることは意識されていた。もちろん、地元の熱意と受入体制の整備も不可欠であり、形式的には何とか合格点に到達していたものと推測される。しかし、その後の歩みは必ずしも平坦なものであるとはいえない。まず、設置に当たっては、和歌山県からの和歌山大学に対する働きかけで始まった。2000年代初めに建設が計画されていた県立情報センターBig-Uに和歌山大学のサテライトを設置し、実際、毎年、和歌山県から南紀熊野サテライトに補助金が交付されているようである。ただ和歌山県全体の過疎化・高齢化が全国屈指といえるほどに急激に進行する中、税収も大きく減少しているため、和歌山県のサテライトに対する支援体制が少しずつ消極的になってきているように感じられることが懸念される。次に、開設当初の基本方針は学部教育よりも大学院教育に力が注がれており、大学院が6科目であるのに対し、学部科目は3科目であった。その後、大学院受講生が減少し、学部受講生が漸増するという受講生数の傾向が明確になった最近では、大学院よりも学部の方が圧倒的に地域のニーズが高いとが認識するようになり、大学院が5科目であるのに対し、学部は6科目という状況である。率直に言って、大学院は存続が危ぶまれるほどに受講生数が少なく、地域住民にとって敷居が高いというのが現状である。

2.1. 南紀熊野サテライト学校型事業

(1) 大学院授業

他研究科に所属する教員の応援も仰いで、概ね年間5科目を開講している。2019年後期に経済学部教員が携わった開設科目と担当者は、次の通りである。

[2019年度後期]

大学院授業科目

2019年12月6・7日 2020年1月10・11日 1月24・25日

今田秀作教授「グローバル化の歴史と現状」

(2) 学部開放科目

地域ニーズを反映した授業編成で体系的な学びの機会として設置。南紀熊野地域の諸課題に対する地域ニーズの高い内容について、学内研究の成果の地域還元として授業に編成して開講。概ね年間6科目を開講している。2019年度後期に経済学部教員が携わった開設科目と担当者は、次の通りである。

[2019年度後期]

2019年10月18・19日 11月8・9日 12月13・14日

吉田雅章教授「地域暮らしの法律学C」

以上は実施済みだが、以下のものは新型コロナウイルスの影響で中止となった。

2020年3月7日

南紀熊野サテライトキャンパス令和2年度前期授業オープンセミナー

吉田雅章教授「地域暮らしの法律学Dより～男と女の法律学～」

大学院授業科目

2020年4月11・18・25日 5月16日 6月13日

梁田優准教授「現代の金融・証券市場」

2020年5月9・23・30日 6月13・20・27日

吉田雅章教授「地域暮らしの法律学D～男と女の法律学～」

2.2. 南紀熊野サテライト非学校型事業

毎年、南紀熊野サテライト連携協議会主催の公開講座&受講生募集説明会を、田辺地域で夏季と冬季に実施している。今期は新型コロナウイルス感染症対応のため、開催中止となった。

3. 岸和田サテライト

2020年度の機構改革で、岸和田サテライトは紀伊半島価値共創基幹に統合され、基幹の中核を構成する価値共創オフィスの組織となったが、ガバナンス上は従来通り独立した組織として存続している。岸和田サテライトでは、これまで(1)学校型事業、(2)非学校型事業、に大別した形で岸和田市をはじめとする泉州地域のニーズに対応した事業を行ってきた。2008年度に岸和田市との協定締結5年を経て策

定された事業戦略チームの報告をもとに、2013年度まで各事業を展開してきた。2013年には協定締結10周年記念事業を実施した。協定締結から10年、事業戦略チーム報告策定から5年が経過し、2013年度にはサテライト事業、岸和田市との協力関係についてこれまでの両者のあり方を点検・評価し、2014年5月に新事業戦略として「和歌山大学・岸和田市地域連携ビジョン/アクションプラン」を策定した。岸和田サテライトは2016年度に設立10周年を迎え、10周年を記念した記念行事を実施した。以下、2020年度の事業に関して、経済学部との関係を中心に記載する。

3. 1. 学校型事業

(1) 大学院授業

地域のニーズを取り入れながら、地域発展や社会人のスキルアップの場として高等教育機能を提供すべく、2006年度より経済学研究科等において、科目等履修生を対象とした大学院授業を実施してきた。経済学研究科では、06年度5科目、07・08年度6科目を開講し、サテライト事業の中核を担ってきた。09年度以降は8科目を開講し、あわせて租税法を研究する社会人学生を対象とした研究指導を岸和田サテライトで実施するなど、サテライト授業の拡充・整備に大きな貢献をしてきた。これら取組の成果として、サテライトでの租税法研究指導を経て、2010年度に2名、2011年度に10名、2012年度に7名が修士課程を修了した。また、社会人受講生の要望を反映する形で、フィールドワークなど実践例を取り入れた授業等を展開し、工夫をこらしているところでもある。2020年度の経済学研究科開講科目と担当者は、下記の通りである。なお、今年度の授業については、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインでの授業実施となっている。

[前期]

産業地域論	藤田和史准教授・岸上光克教授
会社法特殊問題	清弘正子准教授
法人税法特殊問題	片山直子教授

[後期]

租税法実務特殊問題	近畿税理士会（非常勤）
管理会計論特殊問題	藤原靖也准教授
財政学特殊問題	齊藤 仁准教授

(2) 学部開放科目

より幅広い知的要求を受け入れる場として、2008年度から学部授業を開講している。2013年度から、地域のニーズや受講生からの要望を反映させた4系統の科目分類に基づき、年間4科目（前・後期各2科目）を開講している。2017年度から2019年度には、COC+事業の一環として、大阪府立大学・大阪市立大学と連携した科目が開講された。2020年度については、新型コロナウイルス感染症対策および起因旧字体宣言発出の影響で、前期開講予定の科目は開講中止となった。なお、開講予定科目および開講担当は下記の通りである。

[前期] …開講中止

子ども・子育て家庭と現代社会I 村田和子教授・金川めぐみ准教授・船越 優教授・谷口知美准教授

IT社会とデータサイエンス 西村竜一講師・三浦浩一講師・吉野 孝教授・呉 海元教授

[後期]

子ども・子育て家庭と現代社会 村田和子教授・金川めぐみ准教授・衣斐哲臣教授・二宮衆一准教授
豪雨災害とその備え 此松昌彦教授・田内裕人講師

(3) その他の授業科目

岸和田サテライトでは、学生支援の一環として、フィールドワーク支援および情報提供を行っている。2007年度より、経済学部科目「地域調査研究」が岸和田市および周辺の泉州を対象として実施されており、その支援を行ってきた。2018年度は、エキスパートコース・アグリビジネスユニットによる「ECユニット演習Ⅱ」においてより発展させた取り組みを行っている。

各年度の担当者および主たる対象フィールドは下記の通りである。

- 2011年度 足立基浩教授 岸和田市内中心部・中心商店街
- 2012年度 藤田和史講師 大阪鉄鋼団地・岸和田工業センター・愛彩ランドほか
- 2013年度 藤田和史准教授 大正紡績・辰巳織布・ダイワタオル協同組合ほか
- 2014年度 藤田和史准教授 日本レンズ工業・松浪硝子・西田三レンズ・京大原子炉実験所ほか
- 2015年度 藤田和史准教授 タマヤパン・岸和田漁業協同組合ほか
- 2016年度 藤田和史准教授 岸和田市役所・サテライト友の会・協同チーム会議
- 2017年度 藤田和史准教授 市民協働の地域活動
- 2018年度 藤田和史准教授 岸和田商工会議所・蛸地蔵商店街…ECユニット演習IIとして
- 2019年度 藤田和史准教授 蛸地蔵駅周辺の土地利用変化と景観変貌

3. 2. 地域研究・生涯学習事業関係

岸和田市を中心に、地域が抱える課題について、その解決を支援するための研究や、市民の地域研究・生涯学習活動を協同した形で、地域研究・生涯学習活動の推進を図っている。本事業は、本サテライトおよび生涯学習部門が展開しているが、経済学部教員も地域研究活動や学生の調査研究活動等へと参加している。2020度にサテライトを中心として実施している事業は下記の通りであるが、新型コロナウイルス感染症拡大のため開催の見通しは立っていない。

- ・「オープンデータ活用プログラム」…岸和田市社会福祉協議会・友の会と調整し実施予定
柳本多津之事務補佐員・サテライト友の会
- ・「主権者教育プログラム」…岸和田市および（社）岸和田シティプロモーションと調整し、実施予定
- ・連携ひろば「ワダイ×きしわだ」…加入団体（岸和田商工会議所・浪切ホール・JAいずみの・ラヂオ岸和田・岸和田市観光振興会）に行った調査を基に、他のイベント等と連携し、実施予定

3. 3. 生涯学習事業・わだい浪切サロン

岸和田サテライトを、泉州地域住民と和歌山大学との交流・連携の身近な場所とするため、2008年度

より毎月第3水曜日夕方という定時点方式で年10回「わだい浪切サロン」を実施してきた。今年度も同様の形式で実施している。2018年度からは、近隣の大学の教員が話題を提供する機会を提供し、泉州地域が抱える多様なニーズに応える取り組みを実施している。今年度は開講以降、最多の参加があり、地域課題の解消のための一助として好評を博している。また、生涯学習として特別講演会等を実施している。2020年度の経済学部教員の参画は、下記の通りである。

第120回（2020年10月21日） 令和時代のまちづくり戦略—5年で空き店舗がゼロになった商店街—
足立基浩教授

第121回（2020年11月18日） アメリカ大統領選に関するテーマ（予定） 藤木剛康准教授

3. 4. 岸和田サテライト友の会の活動

2007年12月に岸和田サテライト大学院授業履修生（OB/OGおよび受講中の社会人学生）をメンバーとして、「友の会」が組織された。現在、会員は120名を超え、総会や講演会活動などを活発に行っている。2020年度については新型コロナウイルス感染症拡大のため、事業再開の見通しは立っていない。

- ・岸和田市民フェスティバル参加（2020年5月3日…中止）

経済学部においては、サテライトの科目等履修生から本課程に進み、修士課程を終了した方の研究報告会や本学教員による講演会企画、さらにはサテライト授業や本課程募集の広報など、多面的な形で友の会との協力関係を構築してきており、こうした関係づくりはサテライトの事業を充実させる上で不可欠なものとなっている。

3. 5. 高大連携事業

2008年度に岸和田市立産業高等学校から経済学部に対して高大連携の申し入れがあり、引き続きその具体化に取り組んでいる。今年度は、岸和田市立産業高校生と岸和田市立図書館において、岸和田市の繊維産業の「綿」を通した岸和田ブックフェスタを予定している。また、2016年度からは大阪府立岸和田高等学校を中心とする市内各校との連携へと拡大し、泉州地域における高大連携活動を拡充しているところである。

3. 6. 南紀熊野サテライト、生涯学習・リカレント教育推進室との連携強化

2010年度においては、南紀熊野サテライトと共通科目を開講した。2011年度からは3サテライト体制下で、地域連携・生涯学習センター（現生涯学習・リカレント教育推進室）をハブとして、情報交換・事業調整のための交流の場を設け、連携強化を図ってきた。2018年度からは、機構改革により南紀熊野サテライトとの連携を持ちながら、各種事業の推進・情報交換を行っている。

4. 国際連携部門

旧国際教育研究（IER）センターの「教育」業務を引き継いで2017年4月に発足した国際学生部門その後の「国際連携部門」では、主に国費留学生・交換留学生を対象とした受け入れ留学生の教育と生活支援、派遣留学生の教育、国際交流教育、地域交流、その他大学の国際学生交流全般を取り扱ってお

り、大学を通じた国際連携・交流の促進のため、世界の教育機関と交流を深め、将来を担う人材育成を通して、広く国際社会に貢献している。また、日本人学生・留学生・教職員・地域の人々の国際交流や国際理解を促進し、各種国際交流活動を実施する本学の基幹組織の役割も果たしている。

(1) 2019年12月17-20日 第10回山東大学経済学院・和歌山大学経済学部共同研究討論会ほか研究交流の実施(和歌山大学側教職員5名報告、山東省濱州市内視察)

(2) 2019年12月12日 経済総合研究所講演会 Dr. Raditya Sukmana 氏(Head of Islamic Economics Department, Faculty of Economics and Business Universitas Airlangga, Surabaya, Indonesia) 「Sovereign Retail Sukuk: The Indonesian Experience」

(3) 2020年1月16日 経済総合研究所講演会 モハメッド・エルーミ氏(駐日チュニジア特命全権大使) 「THE SUCCESS OF DEMOCRATIC PROCESS IN TUNISIA AND THE ONGOING ECONOMIC CHALLENGES」

(4) 2020年1月28日 経済総合研究所講演会 Dr. Mark.J.Holmes 氏(ニュージーランド、ワイカト大学・ワイカトマネジメントスクール 教授) 「Insights into Retail Energy Pricing」

5. 紀州経済史文化史研究所

紀州経済史文化史研究所は、「紀州地域の経済、文化の史的研究及び人と自然に関する研究並びにそれらに関する資料の収集及び公開を行い、「知」の提供を通じて地域社会の発展に寄与すること」を目的とした研究所である。本研究所は、和歌山大学の創設まもない1951年に設立され、およそ70年以上の歴史を刻んでいる。この間、紀州関係の史的研究や資料収集等の活動を行ってきた。経済学部では、長廣利崇准教授(2020年4月より教授)が副所長と幹事として企画・運営に携わり、遠藤史教授、瀧野邦雄教授、藤田和史准教授が幹事として、今田秀作教授、三光寺由実子准教授、上野美咲講師、本庄麻美子講師が所員として活動している。

紀州研では、学術的知見を分かりやすい形にかえて広く社会に発信する活動をおこなっている。2019年10月18日の「曝涼会」、10月19日の「たのしい考古学」の運営に長廣教授が関与した。2019年11月7日和歌山信愛学校への「秋のミニ講義」には、三光寺准教授が「会計史へのいざない—中世日本の英知に光を当てて—」を講演した。2019年11月23日の七宝瀧寺ツアー、11月24日のこれに関する公開講座の運営に長廣教授が関与した。遠藤史教授が「言語学の世界」(12月3日公開)と題する内容をSNSによって公開した。2020年2月8日の小学生を対象とする「かるた大会」に長廣教授が運営に関与した。展示に関しては、2020年常設展「紀州地域の文化財」(6月25日~7月31日)が、コロナ感染症対策として、動画のみの公開となった。これには長廣教授が作成に関与した。

なお、本学の教養科目の「わかやまを学ぶ」には、2020年度前期に経済学部からは遠藤教授、長廣教授が各1回の授業を提供した。

6. きのくに活性化センター

きのくに活性化センターは、形式的には和歌山大学とは別個であり、全く独立した組織である。しかし、その開設・運営・管理には和歌山大学経済学部を退職した教員が全面的に関わっており、実質的には経済学部と密接不離の関係にある組織といっても過言ではない。きのくに活性化センターの事業概要は、田辺・新宮両広域圏市町村組合(紀南地方全自治体)や田辺・新宮両商工会議所、JA紀南、和歌山県、和歌山大学(南紀熊野サテライト)の参画による調査研究機関として紀南地方の諸課題に関するリ

サーチや相談窓口の役割を担い、地域の価値をブラッシュアップする事業を提案・協同で実践し、地域と地域、地域と人を繋ぐ「場」の創出を行ってきた。ただし、2017年度以降は、組織存続に関する議論に終始した様相を呈しており、2017年度から経済学部現役教員が関与した具体的活動は存在しない。

7. 和歌山地域経済研究機構

和歌山地域経済研究機構は、経済学部、観光学部、和歌山商工会議所、和歌山社会経済研究所と共に研究・政策提言活動を行っている。新型コロナウイルスの影響で2020年度の活動について、和歌山地域経済研究機構のあり方に関する理事個別面談を実施している。

2020年度の本学での役員、和歌山地域経済研究機構の理事、活動は次のとおりである。また、Webサイトの運営等を提供し、事務局業務についても貢献している。

7. 1. 役員

理事長：マグレビナビル 教授

理事：辻本勝久 教授

7. 2. 和歌山地域経済研究機構の理事個別面談およびメール審議

日時：2020年6月10日

場所：和歌山商工会議所、和歌山社会経済研究所

議題：機構のあり方、事業提案、会費について

出席者：マグレビナビル教授、長谷室長、宋謙研究支援員

第1回理事会メール審議

日時：2020年6月18日-6月29日

議題：1. 令和元年度事業報告並びに収支決算報告について、2. 令和2年度事業計画（案）について、3. 令和2年度収支予算（案）について、4. 機関誌原稿募集について、5. その他

第2回理事会メール審議

日時：2020年8月3日-8月20日メール会議

議題：令和2年度機構助成研究の審査・助成決定

7. 3. 刊行物

機関誌：地域経済 No. 24（2020年12月発行予定）

8. 柑芦会

経済学部同窓会は、和歌山大学経済学部の前身である和歌山高等商業学校の第1回卒業式にあたり1926年3月に結成され、その後1929年に当時の岡本校長によって「柑芦会」と命名された。

柑芦会には、「会員相互の親睦を図り、かつ、母校と会員との関係を緊密にし、その隆昌と発展を助け、あわせて社会文化の進歩向上に寄与することを目的とする」（会則第2条：1958年制定）ことが謳

われており、これを受け大阪支部では「人生と仕事の幅を広げる！」をモットーに、会員等に向けたいくつかの「人生塾」が開催されている。

2004年9月より開始された和歌山大学教員を講師とする「研究わくわく人生塾」には、経済学部を中心に教員を派遣し、大阪支部会場において年4回、「研究の楽しさ」や「現在の研究テーマ」等について講義を行っていたが、今年はコロナ禍の影響により開催しなかった。

8.1. 研究わくわく人生塾講師

コロナ禍により2020年10月時点ではそれまでの開催はなく、2021年1月以降の開催も未定。

9. 研究推進オフィス

研究推進オフィスでは、科研費等の学外研究資金の導入・運用、学内研究資金の効率的運用、海外客員研究員奨学金制度の活用、国際学術共同研究事業の企画・運営その他、研究に関わる様々な事項に関する支援体制を整え、研究者の自由な発想に基づく創造的研究の進展を後押ししている。

「研究推進オフィス」において、研究・社会貢献の振興や活性化のために、本学部研究者の学術論文や研究報告書、社会活動などを当オフィスHP上に公開することで、学部研究者の研究活動成果への学内外からのオープン・アクセスが可能となるようにしている。

さらに、創造的研究を実社会に還元できるサイクルの基盤構築に向けて、産官学連携を強化し、産業界や地方自治体等のニーズと本学部の研究・技術（経済分析・事業立案・計画策定・まちづくりアイデアの提供など）とのマッチングや受託研究・共同研究による研究交流を実施している。

9.1. 社会・地域連携活動のとりまとめと情報発信

昨年度の『地域・国際貢献活動一覧』冊子をもとに、学内諸組織での経済学部教員の活動、経済学部のOB・OG組織である柑芦会、きのくに活性化センターなどの学外組織との連携活動など、社会貢献活動の実態把握につとめた。さらに、個々の教員の活動についても、ゼミナール・講義等での学生、大学院生とのフィールドワークなども包括する形で情報収集につとめた。

情報発信の面では、昨年度の冊子刊行以降の取り組みについて、本冊子の編集・刊行を行い、広く学内外に情報発信している。

9.2. 地域社会のニーズに応える窓口

研究推進オフィスでは、地域社会から寄せられた各種依頼のコーディネートに取り組むとともに、経済学部のWebサイト内に研究推進オフィスのページを作成し、学外への情報発信と窓口機能の整備・充実を図っている。なお、産学連携イノベーションセンターとの連携で、研究シーズの提供を行っている。

9.3. 学術交流等の国際連携のサポート

海外客員研究員奨学金制度を用いて、下記のとおりマレーシアから1名を客員研究員として招聘した。新型コロナウイルスの影響で当面、来日を見合わせている。

招聘者：Obiyathulla Othman Bacha 氏

(International Centre for Education in Islamic Finance, INCEIF)

受入予定期間：2020年10月8日～2020年10月31日

受入教員：マグレビナビル教授

9.4. 学内諸機関との情報交流とネットワークづくり

地域社会や産業界との連携を進めていくため、「産学連携イノベーションセンター」、「南紀熊野サテライト」、「岸和田サテライト」などの学内の地域連携機関のみならず、本学における「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」を推進するCOC+推進室や、「国際観光学研究センター」などの国際連携機関と日常的に円滑な情報交流を行っている。2020年4月より、紀伊半島価値共創基幹が設立され、今後もさらなる連携を図る予定である。

9.5. 研究推進オフィス委員会の運営

研究推進オフィスの組織活動と運営方針を議論する機関として、研究推進オフィス委員会を運営している。2020年度は、新たに下記の4名のメンバーで構成している。

研究推進オフィス 2020年度メンバー一覧

藤木剛康准教授（オフィス長）

瀧野邦雄教授

築田優准教授

宋謙研究支援員